

## 小規模校における教員相互の指導力向上を目指した取組 －低中高ブロック体制での教員連携を通して－

教職実践専攻・ミドルリーダー養成コース

学籍番号 19GP406 氏名 原田 正樹

### 1 小規模校の現状と課題

#### (1) 中央教育審議会答申より

中央教育審議会は「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」(答申)の『3「チームとしての学校」を実現するための具体的方策』の(1)の「①教職員の指導体制の充実」では、教職員定数の充実の必要性(教員の準備や研修等のための時間の確保)、主体的・協働的な学習の必要性、カリキュラム・マネジメントの必要性、研究・研修の機会の確保、教員の業務の見直し等を、重点課題として挙げている<sup>1)</sup>。

#### (2) 小規模校における一般的課題

文部科学省の指針によって規模別に青森県内の公立小学校286校を分類すると、小規模校は210校(73.4%)で約4分の3を占める。小規模校のうち72校が複式学級を有する過小規模校である(26.9%)<sup>2)</sup>。これは、半数近い

表1 青森県の公立小学校の規模別統計

学校規模	大規模校	中規模校	小規模校	合計
学級数	19学級以上	12~18学級	11学級以下	
校数	9校	67校	210校	286校
割合	3.2%	23.4%	73.4%	

(平成30年5月現在)

学校が複数の教員で学年団を組めず、1個学年1名の教員で指導に当たっていることを示している。

筆者は、これまでの19年間の教職経験で6校に勤務した。大規模・中規模校では、複数の教員で学年団を形成できるため、困ったことがあれば気軽に学年主任や学年内の教員に相談し、適切なアドバイスを受けることができた。しかし、小規模・過小規模校では、学級担任イコール学年主任であり、時間的な余裕がないため、他学年の教員には相談もしづらく、様々な困難に対し自分一人で向き合いながら学級経営に取り組むことが多かった。

また、平成27年度の青森県の統計によると、小学校教員の年齢分布は50代が最も多く約43.5%、40代が約37.8%、20代・30代の若手教員は2割を切っている状況にある<sup>3)</sup>。今後学校現場では、若手教員が増えていくことが容易に推測できる。しかし、若手教員を、学年団を形成できる大規模・中規模校に集めることは当然困難であり、若手教員は、経験が少ない中で小規模校で他の教員と相談できないままに学級経営を行う場合も必然的に多くなることが予想される。

#### (3) 勤務校の現状と課題

勤務校は一村一校の小学校である。全校児童120名程度で、1個学年1学級、学級に在籍する児童は平均約20名である。また、特別支援学級が2学級である。児童は、のびのびと明るく活発である。しかし、素直に感謝や反省の気持ちを伝えるなどの自己表現が苦手な児童が多い。また、学級編成替えができないことで人間関係上のストレスを抱える児童も少なくない。さらに人間関係が固定化された集団生活が中学校まで続き、良好な人間関係を構築するために、教員は学級経営に細心の注意を払う必要がある。

「平成27年度発達障害の可能性のある児童生徒等に対する支援事業報告会」(文科省

特別支援教育課)の調査によると、平成24年12月現在、知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合は約6.5%となっており、小学校児童に限定すると、約7.7%となる<sup>4)</sup>。本校でも当該児童が各学級に2~3名見られる。また、学習意欲の低さから、当該児童の影響を受けやすい児童もいるため、学習に集中させることが困難な場面もある。

本校は短期間の異動で教員の入れ替わりが激しく、若手教員も多い。さらに、現在正規教員3名が育児休業に入り、3名の臨時講師が入っている。現状においても一斉指導が難しい学級がある状況で、経験の少ない若手教員や臨時講師が多くなり、指導に不安がある。また、ベテランの教員であっても、生徒指導に労力を割かなければならず、十分に学習指導を行うことが難しい状況も考えられる。

## 2 研究のねらいと体制づくり

### (1) 本研究の主たるねらい

本研究では、「低中高ブロック体制での教員連携」による実践を行うことで、チームとなって教職員が教育活動に取り組むこと、小規模校における学級担任の学習指導や生徒指導などの学級経営における悩みや課題を解決すること、何よりも、本校における課題を解決することにより、教員相互の指導力向上をねらう。

「ブロック体制での教員連携」とは、ブロック内に教職経験の長いベテラン教員・中堅教員を意図的に配置し、学習指導・生徒指導を中心に、教員として必要なスキル(児童への指導、環境整備、教材の準備等)を若手教員と互いに学び、補完し合うものである。

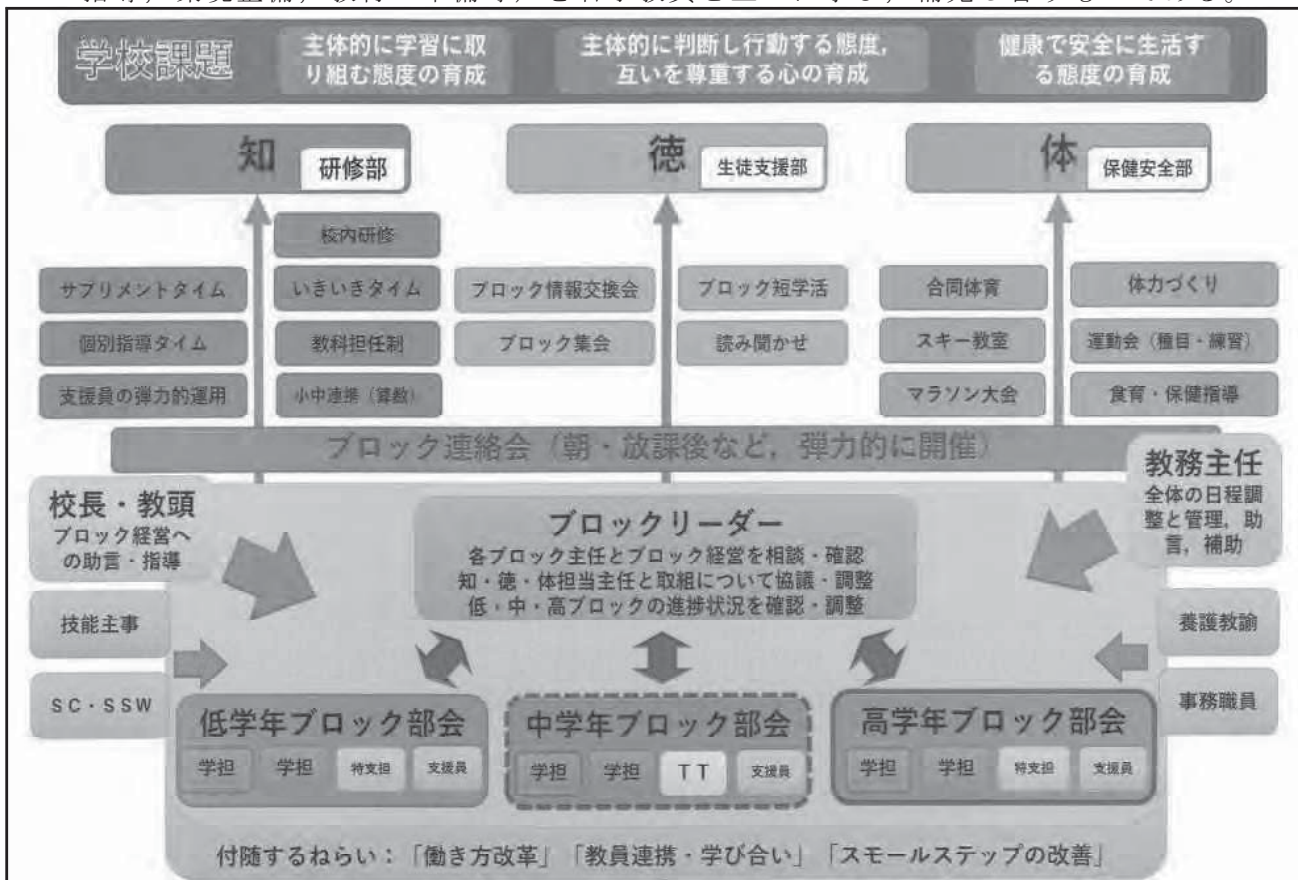


図1 校内の連携体制（ブロック体制を中心に）

(2) 「低中高ブロック体制での教員連携」のための組織づくり

① 「ブロック体制での教員連携」への理解と協力

前述の「ブロック体制での教員連携」は、本校におけるこれまでの学級担任による指導体制を大きく変えることになるため、学校全体で分掌等を変更する必要がある。「ブロック体制での教員連携」は、本校校長の経営方針に挙げられていたものであり、校長の意向・理解のもとで計画を進め、取り組んできた。昨年度は、今年度からスムーズにこの体制で取組を開始できるように、本校の教育課程編成会議において体制の確認をしたり、ブロックでの活動の一部を試行したりするなどして、学校全体で本研究をバックアップするという理解が得られている。

② ブロック部会とブロック連絡会

各ブロック部会は、学級担任、特別支援学級担任、算数TT、支援員など、4名で構成する(図1参照)。このうち1名を、各ブロックの核となるブロック主任とする。ブロック主任は、ブロックの責任者としてブロック内の運営を行い、統制をとる。また筆者が低・中・高学年ブロックをまとめるとともに、PDCAサイクルに則って、教員の指導力向上のための工夫・改善を推進していくブロックリーダーを務めている。

ブロック連絡会は、毎月の職員会議後ブロックリーダーがブロック主任を招集するとともに、管理職にも加わってもらい、各ブロック間の情報交換や運営上の問題点を共有し合い、より効果的な教員連携の形づくりにつなげることをねらいとしている。

3 本年度の実践

(1) 「ブロック連携計画」の作成

4月の新学期が始まる前の段階で、ブロック毎に今年度の活動内容を話し合い、「ブロック連携計画」を作成してもらった。低中高のブロックの取組を一覧にしたものが表2である。これにより、校内全体で実施する取組と、児童の発達段階に見合った独自の取組を見比べやすくなった。この計画には、校内研修におけるブロックの連携や、読み聞かせ、情報交換会など、全ブロックで共通して実践する取組の他、新入生サポートや一部教科担任制など、それぞれのブロックの児童の発達段階を考慮した独自の取組が盛られた。

これを学期毎に各ブロックで見直し・改善を行い、次の取組につなげていった。

表2 ブロック連携計画一覧表

Table with 3 columns: 【知】進んで学ぶ子, 【徳】進んで行動する子, 【体】進んでつよい体をつくる子. The table contains detailed descriptions of activities and goals for each block across various subjects and levels.

## (2) 「ブロック連絡会」の実施

各ブロックにおける知徳体のブロック連携の取組状況を確認するために、月1回の割合で「ブロック連絡会」を開いてきた。ここでは、諸課題の解決に向けてスモールステップの改善を図るため、計画した取組の見直し等について話し合った。見直し・改善の際には理由や根拠を説明してもらい、他の実践中のブロックが改善に生かせるようにした。例えば、児童の長期休業中の課題量をブロックで足並みを揃えたという報告を受け、他のブロックでもこれを実施した。

### ブロック連絡会の記録（7月21日の記録、抜粋）

高ブロック：夏休みの課題について、ブロック内で量と内容の調整をした。  
ブロック内である程度調整をしておいた方がよいと思ったのだが、他のブロックはどうか？

低ブロック：内容と量についてはある程度事前に相談して進めていた。

中ブロック：結果的に同程度の内容になったが、冬休みは事前に調整を図りたい。教材を発注する業者についても調整が必要か。

~~~~~ (中略) ~~~~~

低ブロック：合同の朝の会については、計画通り月曜日に進めることができた。しかし、合同の帰りの会は帰りの準備に時間が掛かることと、全員の準備を待つ時間が長いので、実施を見合わせている。

中ブロック：合同の朝の会は、金曜日以外の曜日ではほぼ実施できた。朝の歌で音楽の教科書の歌を歌うようにしている。司会を担当することにも慣れてきた児童が多くなってきたと感じる。

高ブロック：合同の朝の会は、コロナの感染予防のため形態を変えている。しかし、朝の歌では6年生がリコーダー演奏をして、5年生が歌うなど、感染予防をしながら実践できることを探って実施している。

## (3) 「ブロック部会」の弾力的な運営

当初の計画では、火曜日の職員朝会后や金曜日の職員終会后、児童が下校した後などでの定期開催を目指していたが、「決められた時間にブロック部会に所属する全ての教職員が集まって話をすることは負担になる。」という意見が多く寄せられた。このため、お互いに空いた時間で合同学習の計画を話し合ったり、児童についての情報交換をしたりする方が効率的であるということになり、当初の方針を変更し、不定期に開催することとした。その結果、全ての職員が揃っていなくても情報交換する回数が増え、ブロック主任以外の教職員からも伝言で伝えられるなど、ブロックとしての連帯感が強まったという意見も聞かれた。また、それぞれの学級で気になっている児童の様子や効果的な授業、指導の仕方などを相談し合うなど、気軽に指導の方向性を相談できる場へと、ブロック部会の存在意義が変化してきた。

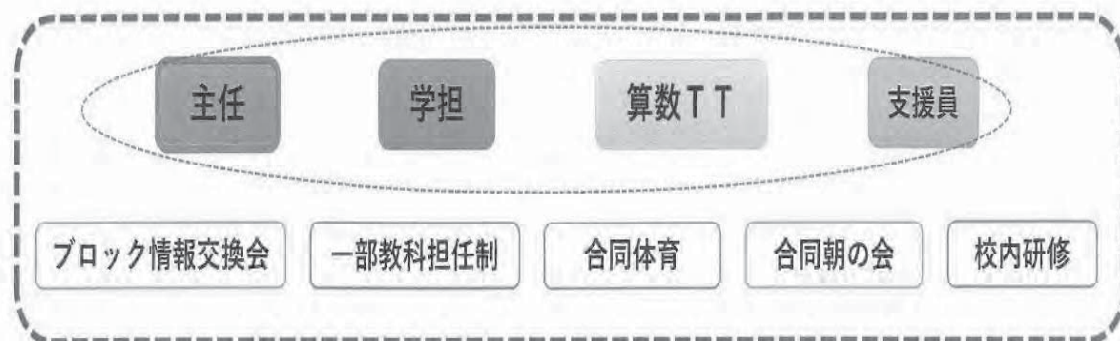


図2 ブロック部会のメンバー構成（中ブロック部会の例）と主な取組

## (4) ブロック連携の促進を目指した「ブロック連携だより」の発行

ブロック連絡会や日常の情報収集、アンケートの結果などから得られた情報を「ブロッ

ク連携だより」として筆者が作成し、全教職員に発信してきた（図3参照）。このたよりでは、各ブロックでの取組の紹介、負担感の軽減を目指した情報、運動会練習の様子等を掲載することで、ブロック連携の意識を高め、それぞれのブロックの取組のヒントとなるようにした。

「ブロック連携」推進だより

# ONE TEAM

令和2年 8月17日  
第2号  
文責：原田

☆1学期の取組を振り返って☆

低中高各ブロックでの1学期の取組、お疲れ様でした。各ブロック主任より、1学期の反省と取組の様子を伺いました。各ブロックの特長的な取組を紹介させていただきます。2学期の取組のヒントとしていただければと思います。

**☆低学年ブロック**  
**辞類考査(4月)**  
低ブロック主任が、2年生の児童に対して「国語」「算数」の授業を行い、2年生担任に見てもらった実践が成されました。  
**新入生サポート(4月)**  
2年生の児童が1年生のために、朝の準備・図書コーナー利用・休み時間の過ごし方について一緒に教えながら活動する実践が成されました。

**☆中学年ブロック**  
**合同の朝の会(月～木と、朝マラソンのない金曜日に実施)**  
全校で歌っている曲以外に、各学年の音楽の教科書から選択した曲をブロック合同で歌う。先生からは、各担任が気付いた点を補足し合って指導している。可食は各学年の児童が1名ずつ担当している。

**☆高学年ブロック**  
**一人勉強ノートコンテスト**  
1回目の参観日に向けて、児童委員の「一人勉強ノート」のコピーを掲示。お互いのクワスのノートから、よいと思った一人勉強ノートに投票して、順位を紹介しました。



★2学期の「ブロック連携計画」について、各ブロックで話し合っていたいただきたいと思います。計画の掲載を8月20日(木)までに、原田まで提出願います。

(第2号)

「ブロック連携」推進だより

# ONE TEAM

令和2年 8月31日  
第4号  
文責：原田

☆2学期の各ブロックの取組☆

|   | 【矢口】                                                                                            | 【初穂】                                                                                       | 【休】                                                                                      |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 低 | ☆校内研修<br>☆振り返りの統一<br>☆学習規律の統一<br>☆生活科の合同学習<br>☆計算の定着<br>サポートで算数練習を工夫<br>☆合同校外学習                 | ☆合同の朝の会<br>基本、月曜日に実施<br>☆情報交換会 原会の開催<br>☆学級通信、日常会誌で情報交換                                    | ☆合同体育<br>☆なわとび、すくすく運動、発表会<br>☆運動会合同練習<br>☆新体力テスト合同練習<br>☆手洗い・うがい・トイレの指導の統一               |
| 中 | ☆一部教科担任制の実施<br>☆外国語活動 体育<br>3年担任 ⇄ 4年担任<br>☆校内研修<br>☆振り返りの統一<br>☆音読の量の調整 大まかに                   | ☆合同の朝の会<br>金曜日は各学年で実施<br>☆読み聞かせ<br>☆情報交換<br>☆合同の朝の会<br>定時設定せず、日常会誌で<br>☆ブロック集会<br>★トイレの見回り | ☆合同体育<br>(毎週火曜日と金曜日の2回実施、水曜日は、各学年で実施)<br>☆マラソン(可能なときは、準備運動を合同で実施)<br>★運動会合同練習<br>★新体力テスト |
| 高 | ☆一部教科担任制の実施<br>☆外国語 ⇄ 家庭科<br>5年担任 ⇄ 6年担任<br>☆校内研修<br>☆音読の量の調整<br>☆準備運動の課題も調整予定<br>★一人勉強ノートコンテスト | ☆朝の読み聞かせ<br>☆臨時集会<br>☆生徒指導情報交換会<br>★合同の朝の会                                                 | ☆体力づくり<br>☆マラソン大会(神前もさむ?)<br>☆運動会<br>(種目、行進練習、前準備など)                                     |

2学期の各ブロックの取組は上記のように決まりました。しかし、計画は計画ですので、途中での修正や変更をそれぞれのブロックで話し合い、どんどん手を加えていただければと思います。  
2学期も1学期と同様にコツコツと情報交換を行っていただき、星田小の「ブロック連携」の柱を太くしていければと思います。まだまだ残暑は厳しそうですが、先生方の連携・チームワークで暑さには負わずに乗り切りましょう。(\*) (水曜日)からまだ、暑くなりそうです。

(第4号)

図3 ブロック連携だより

(5) 「一部教科担任制」の実施

昨年度の計画段階では、大分県の先行研究に倣い、高学年ブロックにおいて主要4教科(国語・社会・算数・理科)の授業を同ブロック内の学級担任同士で交換する教科担任制の導入を考えていた。しかし、今年度4月に、高学年ブロックの教員に主要教科での一部教科担任制を打診したが、経験のない取組であることと、負担が大きくなる可能性があるという意見を受け、外国語科と家庭科での一部教科担任制に変更して取り組むこととした。

また、主要教科でなければ中学年でも実施が可能ではないかという意見を受け、中学年ブロックで外国語活動と体育科の一部教科担任制を実施してきた。

(6) 「合同学習」の実施

①低学年ブロック

低学年ブロックでは、体育科と生活科の一部単元で合同学習を行ってきた。

体育科では、1学年対象のスタートカリキュラムを終えた後から基本的に毎時間の授業を合同で実施した。この学習では、2年生が1年生の手本となって学習を進めるスタイルを取り入れた。この方法では、授業時間に活躍できる児童が固定化しやすいというデメリ

ットもあるが、授業をスムーズに進行でき、複数の教員で指導・支援を行えるという大きなメリットがあった。

生活科では、学校探検や学校園での畑作業など、単元毎に合同で学習できる場面を選んで実施した（図4参照）。2個学年合同にすることでグループ数が増え、指導・支援の際に教師が見るべき人数も増えるが、2年生が1年生の支援をできるという大きなメリットがあった。

## ② 中学年ブロック

中学年ブロックでは、体育科で合同学習を行った（図5参照）。具体的には、週3時間のうちの2時間を合同で実施し、残りの1時間は教科担任制により、学年単位の授業を行った。さらに、合同学習2時間のうちの1時間は、TT教員（算数）にT3として加わってもらうことで、指導や支援がより充実した。また、全体指導が中心の授業や、けが等の危険性が低い授業では、教員1名が指導にあたり、もう1人の教員に空き時間を確保することもできた。



図4 低ブロックの合同生活科



図5 中ブロックの合同体育

なお、運動会で歌う歌や小中合同合唱交流会で発表する曲の練習を行う合同音楽や版画指導をブロックで一斉に指導する図画工作科の合同学習も計画していたが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、今年度は、実施を見合わせた。

## ③ 高学年ブロック

協調性の面で課題を抱える児童が複数学級に在籍しているため、年度当初計画していた体育科の合同学習については、4月に試験的に数回実施したが、児童が落ち着いて学習に集中することが難しいと判断し、その後は実施しないこととした。なお、1学期から2学期に実施が延期された運動会の練習については、5・6年合同で実施することができた。

## （7）校内研修における連携

低中高各ブロックを単位として、校内研修を進めてきた。具体的には、提案授業や見せ

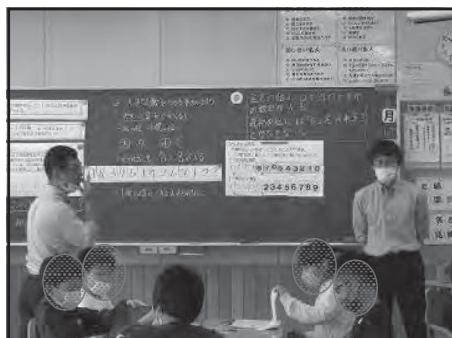


図6 第4学年提案授業



図7 第3学年提案授業

合い授業の授業内容や指導案の検討を、まずはブロック内で行ったり、司会や記録などの校内研修日当日の役割分担等を決めて取り組んだりしてきた（図6，図7参照）。

日常的に一部教科担任制，合同学習，ブロック部会などを行うことで，隣接学年（学級）の児童の様子を理解するようになってきたことで，提案前の指導案検討では，具体的で率直な話し合いがなされた。具体的には，中学年ブロックの指導案検討では，静かに座って学習することが困難な児童も授業に参加できるよう，単元の選択やどの学習場面を授業で取り上げるかの段階から話し合った。特に，導入場面を工夫したり，グループで作業しながら集団思考させたりする場面を意図的に導入するアイデアが出された。

実際の提案授業の場面では，主たる学習活動のほかに，T1，T2，支援員の動きと支援が必要な児童へのサポートについても話し合っておいたことで，臨機応変な対応がなされ，充実した授業が展開できた。

### （8）その他の実践

#### ①ブロックでの「朝の会」・「ブロック集会」の実施

本校は，隣接学年（学級）に接する廊下がワークスペースになっており，教室を出てブロック2個学年で集まり「朝の会」を実施してきた。基本的には，低学年は月曜日に，中学年は月～木曜日（計4回），高学年は「朝の歌」の場面で互いの器楽演奏を発表し合うなどの活動をしてきた。これは，小規模校で課題とされることが多い，多くの人の前で緊張せずに堂々と自己表現ができる力を育む場として設定したものである。

また，全校で統一するべき指導が必要な場合は「ブロック集会」という形で「朝の会」と同様にワークスペースで一斉指導を行ったりするなど，活用の場面を広げるようにした。

#### ②運動会に向けたブロックでの練習

例年6月初旬に実施していた運動会を，新型コロナウイルスの影響により今年度は10月に実施することにした。昨年度まで，運動会の特別練習期間は優先的に校庭と体育館を利用できる時間を学年ごとに割り振りして練習していたが，今年度は学年単独で割り振られる時間に加え，ブロックで割り振られる時間が増設された。また，学年単独で割り振られた練習時間をブロック内の教員同士で相談し，ブロックの練習時間に振り替えることがどのブロックでも多かった。学年個別で練習していた徒競走や開・閉会式練習をブロックで実施することで，児童の意欲が向上し，教員の指導力の向上にもつながったと考える。

## 4 児童・教職員アンケートの結果と考察

### （1）児童対象アンケートの結果と考察

ブロック連携の取組に関連して，全校児童124名を対象に7月と12月の2回，アンケート調査を実施した。表3に示したとおり，回答は5から1の選択肢から番号を選ばせた。また，自由記述欄を設け，児童の意見を具体的に収集できるようにした。

教科担任制については，これに関連する設問①では「楽しいと感じる」（評価「5」「4」の合計。以下，同じ。）児童が7月83%から12月92%に上昇した。また，設問②でも「やる気が出ると感じる」児童が同67%から同78%に上昇した。設問③の「学力が付いたと実感できた」児童は約8割から9割となっている。

教科担任制についての自由記述でも，「他の先生と勉強できる教科が楽しい。」，「自分に合っていると感じる。」，「ちゃんと学習しようと気持ちが高まる。」，「いろいろな先生といろいろな教科の勉強をもっとしてみたい。」などの記述が見られ，教科担任制でねらっていた学習意欲の向上や学習内容の定着が図られたと考える。

合同学習については，これに関連する設問④で「体育科の合同学習が楽しい」と感じて

いる児童は同76%から同84%に増加，設問⑥で「生活科の合同学習が楽しい」と感じている児童は7月，12月ともに100%であった。

表3 児童対象「ブロック連携」アンケート結果（上段：人数 下段：割合）

|    |                                             | 〈5すごくそう思う 4まあまあそう思う 3どちらとも言えない 2あまり思わない 1ぜんぜん思わない〉 |           |           |           |           |           |
|----|---------------------------------------------|----------------------------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 番号 | 設問(趣旨)                                      | 段階                                                 | 5         | 4         | 3         | 2         | 1         |
| ①  | 教科担任制は楽しいと感じる。<br>(3～6年生)                   | 7月                                                 | 45<br>54% | 24<br>29% | 10<br>12% | 2<br>2%   | 3<br>4%   |
|    |                                             | 12月                                                | 57<br>67% | 21<br>25% | 6<br>7%   | 1<br>1%   | 0<br>0%   |
| ②  | 教科担任制はやる気が出る。<br>(3～6年生)                    | 7月                                                 | 34<br>40% | 23<br>27% | 17<br>20% | 6<br>7%   | 4<br>5%   |
|    |                                             | 12月                                                | 38<br>45% | 28<br>33% | 12<br>14% | 6<br>7%   | 1<br>1%   |
| ③  | 教科担任制で学力が付いたと実感できる。<br>(3～6年生)              | 7月                                                 | 38<br>45% | 30<br>35% | 13<br>15% | 2<br>2%   | 2<br>2%   |
|    |                                             | 12月                                                | 46<br>54% | 28<br>33% | 8<br>9%   | 1<br>1%   | 2<br>2%   |
| ④  | 合同体育は楽しい。<br>(1～4年生)                        | 7月                                                 | 47<br>56% | 17<br>20% | 6<br>7%   | 6<br>7%   | 8<br>10%  |
|    |                                             | 12月                                                | 41<br>49% | 29<br>35% | 9<br>11%  | 4<br>5%   | 1<br>1%   |
| ⑤  | 合同学習はやる気が出る。<br>(1～4年生)                     | 7月                                                 | 43<br>51% | 21<br>25% | 8<br>10%  | 2<br>2%   | 10<br>12% |
|    |                                             | 12月                                                | 33<br>39% | 30<br>35% | 13<br>15% | 4<br>5%   | 5<br>6%   |
| ⑥  | 合同生活科は楽しい。<br>(1～2年生)                       | 7月                                                 | 37<br>95% | 2<br>5%   | 0<br>0%   | 0<br>0%   | 0<br>0%   |
|    |                                             | 12月                                                | 36<br>92% | 3<br>8%   | 0<br>0%   | 0<br>0%   | 0<br>0%   |
| ⑦  | 合同の朝の会は楽しい。<br>(7月…3～4年生)<br>(12月…1～4年生)    | 7月                                                 | 13<br>29% | 11<br>24% | 5<br>11%  | 4<br>9%   | 12<br>27% |
|    |                                             | 12月                                                | 38<br>40% | 27<br>28% | 15<br>16% | 11<br>12% | 4<br>4%   |
| ⑧  | 合同の朝の会はやる気が出る。<br>(7月…3～4年生)<br>(12月…1～4年生) | 7月                                                 | 15<br>34% | 9<br>20%  | 7<br>16%  | 4<br>9%   | 9<br>20%  |
|    |                                             | 12月                                                | 35<br>41% | 30<br>35% | 10<br>12% | 7<br>7%   | 5<br>5%   |

合同学習についての自由記述では、「人数が多くて楽しいから好き。」という肯定的な意見が多かったが、「なかなか自分の出番が回ってこない。」という否定的な意見が特に中学年で多かった。また、「楽しくない」、「やる気が出ない」と感じている児童も少数おり、課題を残した。

合同体育を見合わせてきた高学年児童の自由記述に、低・中学年と同様に「合同体育を実施してほしい」という回答があったことから、次年度は高学年の実施も検討したい。

設問⑦・⑧は、合同の朝の会について尋ねたものだが、7月の調査では「楽しくない」（評価「2」「1」の合計。以下、同じ。）と感じている児童が36%、「やる気が出ない」（評価「2」「1」の合計。以下、同じ。）と感じている児童が29%と、否定的な回答が高い数値を示した。そこで、筆者が直接児童に個別に聞き取りをしてみたところ、「目の前で聞いている児童の人数が多いので、学級で日直をするよりも緊張する。」「大勢の前で話すことが苦手である。」という意見が多く聞かれた。これらは、小規模校の課題として挙げられる人前で堂々とした態度で話すスキルが乏しいことを表しており、2学期も継続して合同の朝の会を実施してきた。その結果、12月の調査では、設問⑦・⑧とも、「2」「1」の評価を減少させることができた。これは、人前で話す経験を繰り返したことで、児童が人前で話すことの苦手意識の克服に繋がったものと考えられる。

合同の朝の会が各ブロックに普及したことを受けて、全校で統一して指導が必要な事柄は、各ブロックごとに「ブロック集会」をもち、一斉指導を実施するようにした。児童に対して指導を行う教員と、傍らで児童の聞き方指導するために観察する教員、また、個別



に支援を行う教員，支援員と役割を分担することで，児童がしっかり聞く環境が整えられた。全体の指導と個別の支援に協力し合える教員がいることは心強く，指導すべき内容を補足することもでき，非常に効果的であった。

**(2) 教職員対象アンケートの結果と考察**

教職員を対象に7月と12月の2回，アンケート調査を実施した。表4に示したとおり，回答は7から1の選択肢から番号を選んでもらった。また，自由記述欄を設けた。

設問①～⑤は，ブロック連携に関するものであるが，これらの取組が，教員自身の悩みの軽減や他の教員から学ぶ場になっていることなど，肯定的な回答が多かった。自由記述では，若手の教員から「ブロック主任の一斉指導の細やかな配慮（規律，挨拶，返事）がとても勉強になった。」，「支援が必要な児童へのアプローチを具体的に教えてもらうことができ，助かっている。」，「指導方法の違いに気づき，自分の指導を見直す機会になった。」という意見があった。ベテランの教員からは「若い先生の一生懸命さに触れ，質問を受けた言葉の意味を説明することで，自分の頭を整理する機会になった。」という感想を得られた。これらの結果から，若手とベテラン双方に指導力向上が図られたと実感できた教員が多くいることが分かった。

**表4 教職員対象「ブロック連携」アンケート結果（単位：人）**

|    |                                                     | (7とても思う 6思う 5まあまあ思う 4どちらとも言えない 3あまり思わない 2思わない 1全く思わない) |    |   |   |   |   |   |   |  |
|----|-----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|----|---|---|---|---|---|---|--|
| 番号 | 設問                                                  | 段階                                                     | 7  | 6 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |  |
| ①  | ブロック内の先生方と一緒に指導する場面が増えたことで，指導方法や児童への働きかけを学ぶ機会が得られた。 | 7月                                                     | 8  | 4 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |  |
|    |                                                     | 12月                                                    | 10 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |  |
| ②  | ブロック内で相談したり，話題にしたりすることで，学習指導や生活指導への悩みや困り感を軽減できた。    | 7月                                                     | 5  | 4 | 1 | 3 | 0 | 1 | 0 |  |
|    |                                                     | 12月                                                    | 8  | 2 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 |  |
| ③  | ブロックでの取組によって，日常業務の負担軽減になっていると感じる場面があった。             | 7月                                                     | 4  | 2 | 2 | 3 | 2 | 1 | 0 |  |
|    |                                                     | 12月                                                    | 5  | 2 | 1 | 4 | 1 | 1 | 0 |  |
| ④  | ブロック内の先生方と会話をする場面（相談・打ち合わせも含めて）がこれまでより増えた。          | 7月                                                     | 6  | 4 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 |  |
|    |                                                     | 12月                                                    | 8  | 3 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 |  |
| ⑤  | 自分の学級以外の児童と話したり，触れ合ったりする機会が増えた。                     | 7月                                                     | 4  | 2 | 3 | 4 | 0 | 1 | 0 |  |
|    |                                                     | 12月                                                    | 5  | 3 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 |  |
| ⑥  | 一部教科担任制を実施することで，学習意欲の向上を実感できた。                      | 7月                                                     | 2  | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 |  |
|    |                                                     | 12月                                                    | 3  | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |  |
| ⑦  | 一部教科担任制を実施することで，学力の向上を実感できた。                        | 7月                                                     | 1  | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 |  |
|    |                                                     | 12月                                                    | 2  | 1 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 |  |
| ⑧  | 一部教科担任制を実施することで，学習規律の定着を実感できた。                      | 7月                                                     | 4  | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 |  |
|    |                                                     | 12月                                                    | 5  | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |  |
| ⑨  | 合同学習を実施することで，学習意欲の向上を実感できた。                         | 7月                                                     | 4  | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 |  |
|    |                                                     | 12月                                                    | 6  | 4 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 |  |
| ⑩  | 合同学習を実施することで，学力の向上を実感できた。                           | 7月                                                     | 4  | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 | 0 |  |
|    |                                                     | 12月                                                    | 4  | 3 | 1 | 3 | 0 | 1 | 0 |  |
| ⑪  | 合同学習を実施することで，学習規律の定着を実感できた。                         | 7月                                                     | 5  | 3 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 |  |
|    |                                                     | 12月                                                    | 8  | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 |  |

負担感の軽減については，「合同体育で空き時間の確保をしてもらえたことがよかった。」，「日々の情報交換で，提出物や書類の処理がとてもスムーズに済んでいると感じる。」などの意見があり，日常の業務においても連携が効果を挙げていると考える。

設問⑥～⑧は教科担任制に関するものであるが，学習意欲の向上と学習規律の定着については，肯定的な回答がほとんどであった。

しかし、学力の向上については、「感じられない。」と回答する教員が多かった。これは、教科担任制を技能教科で実施したことが大きく影響したと考える。自由記述では、「自分が得意な英語を外国語活動の学習の中で生かすことができ、満足できている。」という意見があった。このことから、個々の教員の得意分野を生かすことが、教科担任制の負担感の軽減につながると考える。

設問⑨～⑪は「合同学習」に関するものであるが、これらの取組が学習意欲や学習規律の向上につながったと捉えている回答が多かった。しかし、学力の向上への効果については、肯定的な回答が少なかった。これは、合同学習を実施する教科が、今年度はコロナウイルスの影響で「体育科」や「生活科」に限定されてしまったことが考えられる。自由記述には「ブロック内の下学年の担任からすると、上学年と多く活動することは、集団行動や規律を学ぶ上でよい影響が大きいと感じる。」や、「上学年は、下学年のよい手本になろうとがんばっている子が増えていると思う。」などの意見が寄せられ、更なる多角的な合同学習の展開により、学力向上につながるものと期待される。

## 5 成果と課題

教科担任制については、所属する教員の特性に配慮したことや、この取組が今年度1年目であること、教員の過度の負担とならないように配慮したこと等で、一部の技能教科での実施となったが、児童の学習意欲や学習規律の向上を始め、知育・徳育・体育のそれぞれの面で効果があったことが確認できた。課題としては、ブロックを構成する学級担任同士の得意教科等のマッチングや時間割の調整等が難しいこと等が挙げられる。来年度は、今年度の取組の課題を受けて、主要教科での実施が可能かどうかを検討し、その実施を目指したいと考える。

また、ブロック毎に合同学習や合同の活動に取り組んだことは、上学年児童は下学年児童に常に見られているという緊張感をもったり、下学年児童は上学年児童の一挙手一投足を見て学び模倣したりすることで、望ましい成長に寄与するということを確認できたと考ええる。課題としては、特に合同体育で児童1人1人に十分な活動時間を確保することができなかったことが挙げられる。

そして、個々の教員が、互いに連携して教育活動等を行って行く中で、『教員相互の指導力向上』をねらうという一番の命題については、筆者が当初想定していた以上の成果を得ることができたと考ええる。

加えて、筆者は過小規模校で複式学級を数回担任した経験があるが、今回実践した「小規模校におけるブロック連携の取組」は、複式での教育活動のメリットである「児童相互の学び合い」を実践できたと考えている。

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、4月当初計画した取組の半分ほどしか実践に移すことができなかったが、来年度は、今年度の反省を基に、より幅広く、充実したブロック連携を実践することで、更なる児童の望ましい成長と、教員相互の指導力向上が実現できるのではないかと考える。

## 引用・参考文献

- 1) 中央教育審議会(2015) 「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」(答申)
- 2) 青森県教育委員会(2018) 「学校種類別学校調査票」全項目集計
- 3) 青森県教育委員会(2016) 「学校教員統計」年齢統計
- 4) 文部科学省(2017) 「平成27年度発達障害の可能性のある児童生徒等に対する支援事業報告会」